

第 2 回津地域医療構想調整会議 概要

●津地域の現状について（病床機能）

- ・津地域は、他の地域からの流入が多くみられ、資料 3 のとおりに 2025 年の病床数を 1000 床も削減してしまうと問題が生じるのではないかと。三重県全体の人口は確かに減っていくことが予想されるが、65 歳以上の高齢者人口については、あまり変化がないので、現在の病床数はキープしておく必要がある。
- ・津地域は流入型と思われがちで、確かに流入は多いものの、一部の疾患についてはそうとも言い切れない。例えば脳疾患などでは流出型になる。
- ・津地域は大学病院を除くと中小の病院で構成されている特異な地域で、そのような中、各病院が救急医療体制を頑張っている。しかし、この先もずっとこの体制が続けられる訳ではないから、機能連携・分化についてもっと大きな視点で議論していかななくてはならない。
- ・どの地域にも言える話であるが、医師等の確保が最重要課題になる。特に若い医師がいないことには、救急医療体制が保てない。

●津地域の現状について（在宅医療）

- ・在宅医療の懇話会は、どのようなメンバーで、年間に何回くらい開催をする予定なのか。
- ・在宅医療を充実させるためには、医師・看護師だけでなく、理学療法士等の医療従事者をどう確保するのが重要である。